

製薬医学医師連 4月に法人化、「日本製薬医学会」へ
日刊薬業2009/03/17

製薬企業に勤務する医師らで構成する「日本製薬医学医師連合会（JAPhMed）」（高橋希人会長）は4月1日付で法人化し、「一般財団法人日本製薬医学会」として新たなスタートを切る。14日に神戸市で開かれた2008年度年次総会で議決された。

同日の年次総会では任期満了に伴う役員改選により、新会長に今村恭子副会長（ヤンセンファーマ）、副会長に佐藤裕史氏（慶応大）、西馬信一氏（日本イーライリリー）を選出した。法人化により4月以降は、今村会長が理事長、佐藤、西馬の両副会長が副理事長に就任する予定。学会名の英語表記は現行通りJAPhMedとする。

今村新会長は就任あいさつで、学会への移行に伴い、製薬企業以外の組織からの、より多くの会員の入会に期待を示した。

会員数は222人（08年12月末、前年度比15人増）で、製薬企業、大学、CRO、病院などに所属。特に外資系製薬企業勤務者の入会が増加しており、約140人を占める。

09年度は新規事業として、国際製薬企業医師連合会（IFAPP）が提供しているeラーニングシステム「e-Clin」の導入を決めた。製薬医学認定医試験の受験条件として全章の受講を必須とする方向にあり、全会員にアクセス権を配布する。

JAPhMedは08年10月に初の製薬医学認定医試験を行い、製薬医学認定医15人が誕生。09年度もほぼ同じ日程で試験を行う計画。